

事業モニターチームとの連携について

1 これまでの議論における主な意見等 (○…施策調査専門委員会委員 ●…事業モニターチーム委員)

■ 令和6年度施策懇談会 (R6.12.16)

- 順応的管理を回すために現場で良かった点、悪かった点をくみ上げて、この会議で共有し、次の展開を考える。そうした点に時間を割けると良い。情報発信チームや事業モニターチームとの連携となるが、収集した県民意見等を施策調査専門委員会で議論し、施策にどう展開できるか議論する必要がある。(※1)
- 今回の施策懇談会を通じ、事業モニターチームと施策調査専門委員会との連携の必要性を感じた。年に一度でも二度でも良いので、専門家も交えて事業モニターのテーマやストーリーについて議論した方がよい。長年委員をされている方は課題認識があるため、事業モニターチームに対し、こうした課題があるのでモニターして欲しいなどの提案があるとよい。(※2)
- 施策調査専門委員会の役割として、事業モニターのテーマを示し、それについて議論いただき、モニターを行ってもらう。役割分担として非常に良く感じた。
- これまで事業に取り組んだ成果として、アウトプットだけではなく、アウトカムでどのように変わったかを確認できるようになってきた。事業モニターの視点も重要になってくると思うので、ストーリー性をこれまでの積み上げの中から見出していくことが重要。
- 県民会議委員に就任した3年間(2年間)で事業現場を見るようにと言われてもかなりハードルは高い。(※3)そのあたりは施策調査専門委員会の方から意見を聞く、あるいは事務局でこれまでの経緯や課題、選定箇所の理由などを共有いただき、事業モニターの視点や評価ポイントなどについても意見交換ができる場が必要と感じた。
- 事業モニターチームだけで計画を一から作ろうというのはかなり厳しいことで、事務局や施策調査専門委員会、もしくは県民会議全体で議論する場が必要。

■ 第69回施策調査専門委員会 (R7.1.14)

- 前回の施策懇談会で話題となった事業モニターチームとの連携を今後どうしていくか。施策後のことを見据えた体制の検討や試行的実施など。
- 事業モニターの評価基準やフィードバックの仕組みをどう考えていくか、施策にどう盛り込むかといった内容は、今年度というよりは来年度に向けて少し議論できるよう時間確保する。
- フィードバックについては、現在、書面で共有しているが、それに対する議論は委員会でないため、それをどのように捉えるか。(※1)場合によっては戦略的にこの委員会で議論し、来年度はこの事業を集中的にモニタリングするなどの話があつてもよいかかもしれない。次回(2月)の委員会で来年度どのように取り組むか議論したい。
- 最終的にはモニタリングチームと議論しないといけないが、まずは施策委員会としてどういうことが考えられるのかを抽出しておき、その上で来年度チームとの議論とい

う流れか。一部スムーズに進んだものは来年度以降、現場で活用していく形がよいかと思う。

■ 第 70 回施策調査専門委員会 (R7. 2. 20)

●施策調査専門委員会と連携しながら、あるいは助言をいただきながら事業モニターのテーマ設定やストーリーがあってもよいとの話はチーム内でも出ている。この辺りを来年度と再来年度にかけて整理していくことが必要。

できれば専門的な知見からこうしたところを見たほうがいいのではないか、こういったところを県民目線で見てもらったほうがいいのではないかというテーマをいただくことで、それが今後の事業モニターの検討につながるのでは。

○専門的な視点でモニターや環境調査を入れようとすると、色々話が広がってきてしまう。そうではなく、あくまで県民目線で見てみるのが主体だと思うので、それを行う上でどういうストーリーがあり、どういう視点で見ればいいのかという点について情報提供し、連携できるとよい。

●来年度は森林関係事業を、再来年度は水関係事業を現状のやり方（任期（2年）内に全事業のモニターを行う）でモニターすることとなる。そこで、やはりストーリーを持たせたほうがいいとか、集中的にこういうことを見たほうがいいという話が出てくれば、そうした点から議論が深められる。

○施策調査専門委員会としても、今後最終評価を確定していく必要があるため、そこにおけるだけ反映できるような情報をいただけるとありがたい。（※ 4）

○来年度、森林関係 5 事業全ての議論は時間的にできないと思うが、1 つ 2 つ取り上げて、例えば 1 番事業のモニタリングをする場合は、こういう経緯があり、こういう問題点があるといった点を共有しておくと、その後のモニターにうまくつながるかと思った。

（※ 3）いいアイデアなので、できるだけ来年度からトライできるところは進めたほうがよい。

○事業モニターとの連携や検討は、最終評価報告書を見据えた形で取り組めるとよい。各チームとの連携が、次回施策懇談会の議論テーマとなるが、どこまで具体化させた案を最終評価報告書の第 4 部にどう盛り込むのかというところと関連してくると思うので、最終報告書のビジョンをもう少し明確化させたほうがいいのではないかと思う。これをやつたらいい、あれもやつたらいいという議論もあるが、それよりはむしろ最終報告書にどう収束させるのかという観点を常に見据えながら次の 2 年間議論するのが重要。

（※ 4）

2 委員会・チーム間連携の目的（ねらい）

施策調査専門委員会 … 順応的管理をスムーズに進める

事業モニターチーム … 効果的な事業モニターの実施

3 施策調査専門委員会と事業モニターチームとの連携について（案）

No	課題・問題点	対応案（例）
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収集した県民意見等を施策調査専門委員会で議論し、施策にどう展開できるか議論する必要がある。 ・ 事業モニターのフィードバックについては、現在、書面で共有しているが、それに対する議論は委員会でないため、それをどのように捉えるか。 	<p>＜R7年度から試行可＞</p> <p>点検結果報告書は、①事業進捗状況、②モニタリング調査結果、③事業モニター意見、④県民フォーラム意見を点検要素としているため、報告書の作成に当たり、③に関して、委員会内でチームリーダーに報告してもらい議論を深める。</p>
2	長年委員をされている方は課題認識があるため、事業モニターチームに対し、こうした課題があるのでモニターして欲しいなどの提案があるとよい。	<p>＜今後検討＞</p> <p>施策調査専門委員会として、順応的管理をスムーズに行うため、課題を踏まえたモニターのテーマ（ストーリー）などを議論する。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県民会議委員に就任した3年間（2年間）で事業現場を見るようにと言われてもかなりハードルは高い。 ・ 1番事業のモニタリングをする場合は、こういう経緯があり、こういう問題点があるといった点を共有しておくと、その後のモニターにうまくつながるかと思った。 	<p>＜R7年度から試行可＞</p> <p>点検結果報告書に掲載している「森林の保全・再生の取組による事業効果」などを有識者から説明いただき、事業モニターに臨む。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後最終評価を確定していく必要があるため、そこにできるだけ反映できるような情報をいただけるとありがたい。 ・ 事業モニターとの連携や検討は、最終評価報告書を見据えた形で取り組めるとよい。 	<p>＜今後検討＞</p> <p>第73回施策調査専門委員会の最終評価報告書の構成検討に関連して議論を行う。</p>

4 今後のスケジュール（参考）

時期	施策調査専門委員会	県民会議／事業モニターチーム
R7. 7. 10	第 71 回施策調査専門委員会	
R7. 7. 31		第 1 回事業モニター ① 水源の森林づくり事業の推進 ⑤ 地域水源林整備の支援
R7. 9~10	第 72 回施策調査専門委員会 ・ R6 点検結果報告書（案）の作成	
R7. 9~11		第 2 回事業モニター ② 丹沢大山の保全・再生対策 ④ 間伐材の搬出促進
		第 3 回事業モニター ⑤ 土壤保全対策の推進
R7. 11		第 64 回県民会議
R7. 12	第 73 回施策調査専門委員会 ・ 事業モニターとの連携 ・ 河川・水路事業の取組事例集の作成状況（中間報告） ・ 最終評価報告書の構成検討等 ・ 施策懇談会に向けた議論	
R8. 1		令和 7 年度施策懇談会
R8. 2	第 74 回施策調査専門委員会 ・ R6 点検結果報告書（案）の作成 ・ 県民会議の仕組みに対する要望 ・ R8 委員会開催スケジュール	
R8. 2~3		第 2 回合同検討会議
R8. 3		第 65 回県民会議